

キーワード

基礎的な知識・技能の習得

標 題

算数の四則計算の習熟

①学校の概要（平成25年6月17日現在）

・児童生徒数143名      ・学級数8学級      ・教職員数19名

②取組を始めた経緯

○基礎学力の中でも、算数、特に数と計算の領域に絞り、四則計算の復習をする。  
○復習を通して、計算力を高め、児童の自信につながるようにする。  
○児童のつまづきの傾向を把握し、支援の共通理解をもとに、四則計算の習熟を図る。  
以上をねらいとして取組みを始めた。

③取組の実施体制

本校の『学力向上』という目標へ迫る手立てとして、学校全体として基礎学力充実へ向けての取組みをする。

④学力向上に向けた具体的な取組

- ①毎週水曜の朝自習の時間、8:15～8:30を『算数すいすいタイム』とする。
- ②テレビ放送を使い、全校が一斉に学習を開始し、終了できるようにする。
- ③この時間は、担任・担任外の職員との複数体制で、児童一人ひとりに細やかな支援を行う。
- ④1年の学習内容から習った学習内容までを系統的に分類したプリントを使用し、No.1から各学年のプリントを進めていく。
- ⑤10分間、各自プリント学習をし、その後各自で答え合わせをする。結果は記録カードに記入する。プリントは各自ファイルに保存していく。

### ⑤取組の成果と課題

1年生から学習してきた計算力の定着を目指し、復習学習をすることで児童に「できる喜び」を味わわせている。学習したプリントは、各学年で残し、学習の積み上げをしている。児童のつまづきが多い課題については、本校の支援課題ととらえ、職員で交流する機会を持つ。

### ⑥取組の継続・発展の要因

○児童のつまづきが多い課題については、本校の支援課題ととらえ、職員で交流する機会を持つ。

○実態把握のためのテスト問題等、考えていく。

○進めながら改善点や今後の方向性が見つかったときには、職員で協議する。

### ⑦管理職・中核教員等のアクション

管理職・担任外も加わり、全学級で複数支援の体制をとっていく。人と競争するものでなく、個々の計算力の向上を目指すことが大切であることを児童に伝える。苦手なプリントがあったときには繰り返し練習することも構わないなど、個々の進め方を考えさせる。支援者側からアドバイスをしても構わない。

### ⑧資料・写真等

